

10月6日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウグレダルの人々(2024年10月4日)

ロシア軍は東部戦線と南部戦線の交差する地点に位置する要衝ウグレダルを掌握した。

そこでロシア軍を出迎えたのは、最後まで当地に残り、解放を待っていた 116 人の市民だった。

<https://x.com/i/status/1842061347133198524>



<https://x.com/tobimono2/status/1842061347133198524/video/1>

②ニコラエフ(ウクライナ)で、123 旅団がドンバスに行って死ぬことを拒否してる(2024年10月4日)

<https://x.com/i/status/1841973689321185338>



<https://x.com/Mari21Sofi/status/1841973689321185338?s=09>

③ゼレンスキー大統領 ウクライナ提唱の和平案への支持訴える(2024年9月26日)

※安齋注:この人は現代ウクライナ史の勉強もできていないで、出だしから思い込みで突っ走っているから始末が悪いね。

ウクライナのゼレンスキー大統領は25日、国連総会で演説し、ロシアの軍事侵攻を止められるのはウクライナが提唱する和平案だけだとして各国に支持を訴えました。

演説でゼレンスキー大統領は「ロシアは戦場で私たちの抵抗を打ち負かすことができない。だからウクライナの精神を打ち砕こうと別の方法を探している。そのひとつがエネルギー施設を標的にすることだ」と述べ、ロシアの攻撃でこれまでにすべての火力発電所が破壊され水力発電の能力の多くが失われたと訴えました。

そして「この冬、市民を暗闇と寒さの中に置き、ウクライナを苦しめ、降伏させようとしている」としてロシアを強く非難しました。

その上でゼレンスキー大統領はロシアが国連安全保障理事会の常任理事国であることを踏まえ「侵略者が拒否権を行使すれば、国連は戦争を止められない」と強調し、ロシアの侵攻を止められるのは領土の回復やロシア軍の撤退などを盛り込んだウクライナが提唱する和平案だけだとして各国に支持を訴えました。

ウクライナの和平に向けては中国とブラジルがことし5月に独自の提案を発表していますが、ゼレンスキー大統領は「本当の利益は何か、疑問が生じる。ウクライナの犠牲の上に自分の力を高めることはできないということを誰も理解しないとイケない」と強くけん制し、受け入れられない考えを示しました。

アメリカ バイデン大統領「われわれはウクライナとともにある」

アメリカのバイデン大統領は国連総会に合わせてニューヨークで25日、ウクライナのゼレンスキー大統領をはじめ各国の代表などを招いたイベントを開きました。

この中で、ウクライナへの経済的、軍事的支援に引き続き取り組むことを確認する共同宣言を発表し、ホワイトハウスによりますと30か国以上とEU＝ヨーロッパ連合が賛同したということです。

イベントで、バイデン大統領は「この戦いとその後の復興においてもウクライナの人々は1人ではない。ウクライナの人々は自由と独立を勝ち取るため戦い、そして犠牲となってきた。われわれはウクライナとともにある」と述べました。

これに対し、ゼレンスキー大統領は謝意を示した上で「こうした支援が具体的なものになることが重要だ」と訴えました。



<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240926/k10014592241000.html>

④難攻不落のウグレダル、今後はロシア軍の戦略的拠点に＝ドネツク人民共和国首長(2024年10月4日)

先にロシア軍が解放したドネツク人民共和国のウグレダル市は高台にあり、周辺を数十キロ見渡せることから、今後はロシア軍にとって極めて重要な拠点となる。共和国のプシーリン首長が SNS への投稿で指摘した。

首長によると、解放された町には 115 人の民間人が取り残されていたことから、ロシア側は全員を救出し、応急処置を行ったとのこと。

ウグレダルはゼレンスキー体制にとってドネツク人民共和国における最後の砦。ウクライナ側は陥落寸前まで撤退を認めなかったことから、指揮系統を失った第 72 独立機械化旅団は命令を待たずに敗走、多くの犠牲を出した。この失態により、体制への批判は国内でさらに高まる模様。



<https://sputniknews.jp/20241004/19164825.html>

⑤米国がウクライナへの長距離ミサイル供与に難色、「在庫は限定的」(2024年10月4日)



米国の武器庫に保管されている長距離ミサイルの在庫は限られており、ウクライナへの追加供与を

行うには、自国の戦闘能力を犠牲にしなくてはならない。国防総省のシン副報道官は会見で次のように述べた。

「我が国の長距離ミサイルの供給は限られており、一部の国(同盟国)が保有しているだけで、在庫は限定的だ……決断を下す際は常に自らの戦闘準備態勢を評価しなければならない」

ウクライナはロシア国内を攻撃するため、長距離ミサイルの供与を要求している。英国とフランスはこれを支持しているが、米国は一貫して反対している。

なお、ロシアは核保有国の支援を受けて非核保有国から攻撃を受けた場合、これを核保有国による攻撃とみなして対応すると警告している。

<https://sputniknews.jp/20241004/19163898.html>

⑥ウクライナ兵が残した「起爆しない」地雷 意外なメッセージとは(2024年10月3日)

露軍兵士らは地雷除去の作業中、ウクライナ兵が故意に起爆しないように埋めたとみられる対戦車地雷を発見。

起爆装置を解除し中を開けると、「ロシア人、ごめんよ」と書かれた紙が入っていたという。

兵士は「我々に敵対する兵士のなかにも、この紛争が必要ないと考えている人がいることを示している。ウクライナ国民のほとんどは、無益に戦っていることを理解している」と指摘した。

<https://twitter.com/i/status/1841807401055404082>



https://sputniknews.jp/20241003/19163044.html?rcmd_alg=collaboration2

⑦マリ、近く BRICS への加盟申請を希望(2024年10月3日)

西アフリカのマリは BRICS 加盟に関心を抱いており、近い将来、サヘル諸国同盟(ブルキナファソ、マリ、ニジェールの3カ国)とともに BRICS に加盟申請することを希望しているという。同国のアブドゥライ・ディオップ外相がスプートニクのインタビューで語った。

ディオップ氏は、BRICS は多国間世界の代替モデルであり、国際関係に一定のバランスをもたら

すと指摘。「BRICS は、地政学的な観点からも、そして我が国の声が国際舞台で確実に届けられるようにするという観点からも、興味深い」とマリは考えているという。

とりわけ、自国通貨や各国通貨を用いた貿易や BRICS 銀行の利用など、経済的な面でも BRICS は興味深い組織であると同氏は述べた。

「BRICS は、我が国の経済や企業が何らかの融資を受けられるようになるという意味で興味深い。我々の見解では、我が国にとって間違いなく興味深い選択肢だ」とディオップ氏は強調した。

BRICS には 2024 年 1 月 1 日からアラブ首長国連邦、イラン、エジプト、エチオピアが加わり、現在 9 カ国で構成されている。

近頃では、トルコ、マレーシア、中米ホンジュラスなども加盟希望を表明しており、プーチン大統領は先月、「世界 34 カ国が BRICS 参加に関心を示している」と明らかにした。

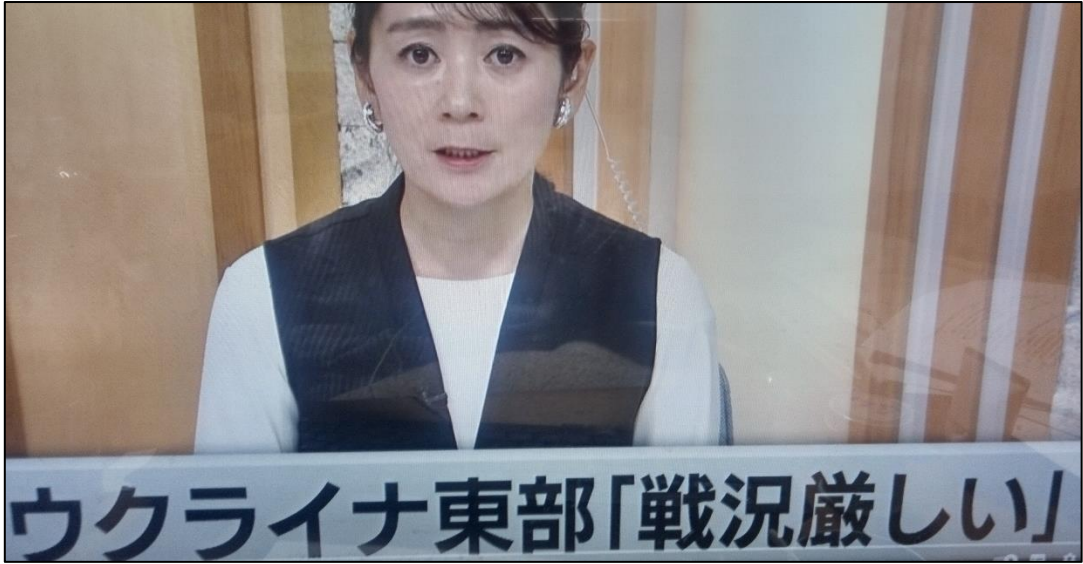


https://sputniknews.jp/20241003/brics-19161900.html?rcmd_alg=collaboration2

⑧ゼレンスキー大統領が欧米諸国に長射程ミサイルでのロシア領内への攻撃を認めるよう改めて訴え(テレビ東京 Biz, 2024年10月3日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は 2 日、ロシアとの戦いで東部の状況が厳しいとの認識を示した上で、戦況を好転させるような決断をするよう欧米諸国に求めました。ウクライナのゼレンスキー大統領は声明を発表し、東部ドネツク州の状況がとりわけ厳しいと述べました。その上で、ロシアを消耗させるために欧米諸国に長射程ミサイルによるロシア領内への攻撃を認めるよう改めて訴えました。ゼレンスキー氏は 9 月、アメリカのバイデン大統領にも同様の要求をしていましたが、結局、見送られています。ウクライナ軍は 2 日、東部の防衛拠点の 1 つであるドネツク州のウグレダルから部隊の撤退を許可したと発表していて、長射程ミサイルによる攻撃で戦況を好転させたい考えとみられます。

<https://youtu.be/JCVnhjLJq6k>



<https://www.youtube.com/watch?v=JCVnhjLJq6k>

⑨米下院議長、ゼレンスキー氏に宇駐米大使の解任要求 ペンシルベニア訪問は選挙干渉(2024年9月26日)

マイク・ジョンソン米下院議長は、ゼレンスキー大統領に対し、ペンシルベニア州にある弾薬製造工場の訪問を企画したことが大統領選挙への干渉にあたるとして、ウクライナのオクサナ・マルカロワ駐米大使を解任するよう要求した。

ジョンソン氏の見解では、マルカロワ氏が企画した民主党関係者だけを同行させるゼレンスキー氏のペンシルベニア訪問は「明らかに民主党を支援し、選挙に干渉することを目的として行われた党派的なイベント」であったとして、米国内の政治プロセスに対する不干渉の原則に違反したという。

なお、ジョンソン氏は、スケジュールの都合上、今週米議会に滞在しているゼレンスキー氏と会談する予定はないと述べた。

ゼレンスキー氏は 22 日、ペンシルベニア州スクラントンの弾薬製造工場を訪問した。一方、米議会監視委員会は、ゼレンスキー氏のペンシルベニア訪問に予算が不正に使用されたとして調査を開始した。



<https://sputniknews.jp/20240926/19135452.html>

⑩【ロシアは警告、あとは米国次第＝露外務次官】(2024年10月4日)

ロシアのセルゲイ・リャプコフ外務次官は4日、スプートニクに対し、「露米の直接武力衝突の可能性は、米国の今後の動き次第だ」と述べた。

発言のポイント

ロシアを試す試みへの対抗策が、これまでよりも遥かに強力になる可能性を米国は理解すべきだ。

ロシアと米国の直接衝突の可能性は、米政府の今後の動き次第だ。ロシアはエスカレーションに警鐘を鳴らしている。

ロシアは米国との対立の要塞壁を築かなくてはならない。これが対米政策の基本となりつつある。



<https://sputniknews.jp/20241004/19168171.html>